



「雲のコレクション」
 [雲を見る, 知る, 集める]
 古川武彦・岩槻秀明 (文・写真)
 洋泉社, 2013年5月
 175頁, 1900円 (本体価格)
 ISBN 978-4-8003-0139-0

今回書評を頼まれたことで、私が大学院を気象で受験しようと思った時まず購入したのがメーソンの「雲と雨の物理」(大田正次, 内田英治訳)と山本三郎(解説)・新田次郎(随想)の「カラー雲」の2冊であったことを思い出した。そして今になって、この2冊の本が私の研究生活に潜在的影響を与えていたことに気付かされた。

さて本書であるが、元札幌管区気象台長の古川武彦氏と、史上最年少で気象予報士試験に合格した経歴をもちテレビやラジオで活躍されている岩槻秀明氏、そして複数の協力者が加わって作った雲の写真集である。本の大きさは雲の写真集としては珍しくA4横判であり表紙は柔らかく、ページをめくりやすくできている。表紙の写真は定番の積乱雲であるが全体に淡い色調となっていて多少表紙が汚れても気にならない。このことから、この本が机の上ではなく、目の前の雲と対比させながら野外で使うことを明らかに意識したものであることが分かる。

表紙をめくると晴天積雲をバックに文字が印刷された読みづらい目次がある。その代わりに、見たい雲が掲載されたページを直ぐに探せるよう数ページ後にイラストと典型的な雲の写真に参照ページがつけられているので、ここに葉を挟んでおけば不自由は無い。また、ページの横に見出しがあり見たい雲を探しやすい工夫もされている。

目次のあとの「はじめに」に、本書は普段何気なく空を見ている人々に、まず雲をしばし眺めてもらい、そこから雲の出来方、さらに気象や天気予報に興味や

関心を持ってもらうこと、雲の持つ「不思議さや癒し効果」、さらに「グローバル性」なども味わえる気軽な本としたいとの著者の思いが書かれている。

あとは、基本の10種雲形と「種」「変種」「副変種」を、空の上層にある雲から順番に見た目から雲の形を判別できるよう、たくさんの写真と簡単な説明がついている。掲載された雲の写真に目を惹かれるものは少ないが、それは本書の目的が単なるきれいな雲のカタログではないということから納得できる。一方、200枚以上も掲載されている割には写真の配置と解説のバランスが良く、語りかけるような文体と合わせて気持ちよく雲の写真を楽しめる。さらに、著者の主観とはいえ、各タイプの雲の出現頻度や大きさの目安が記されている点は目新しい試みである。さらに、本書の後半に間違えやすい雲の見分け方が書かれているのも初心者には親切である。ただ、本書の作成意図から予想はできたが、天気図や衛星画像が使われていないため、雲と気象擾乱との関係が曖昧であり、かつ、使われている雲の写真も凡庸であるため、中途半端という印象は否めない。

なお、重版の際には以下の点を修正することを希望する。

- 1) p118の右上の写真の説明が p117の右上の写真の説明と同じ。
- 2) p121の右下の写真と p129の下の写真が同じ。
- 3) p133の上の説明に脱字あり。
- 4) p169の図中の雪が5角形で、霰の形もおかしい。せつかく、雨滴の形が涙型ではなく扁平な形にしているのに残念である。

最後に、雲の面白さ・不思議さ・力強さは早回しした動画を見ることで一層よく理解できる。最近では電子書籍も普及してきたので、雲の動画集の出版も期待したい。

(北海道大学低温科学研究所 藤吉康志)